

ほんのしるべ

# 青標

2016 .  
6月号

2016年6月5日発行（毎月1回5日発行）  
通巻451号 昭和61年7月15日第三種郵便物認可



## 世界の本屋さん

vol.54

### エストニア・タリン ラフヴァーラ・マトウ

ノセ事務所

能勢 仁



エストニアの経済状況はバルト三国中では一番良い。フィンランドから高速船で一時間半という好立地であり、世界遺産に登録された首都タリン(三十九万人)歴史地区を背景に観光産業が盛んであるからだろう。

ラフヴァーラ・マトウ書店はバル又通りにある。創業は一八八四年で、市内で一番古い。教科書の発行、発売もしている老舗有名書店である。売場は一階、中二階(回廊売場)、地下売場、地下教科書売場に分かれていた。老舗であるが、売場は明るく、一三〇年経過したとは思えない。特に一階は綺麗である。品揃えは先史学、エストニア史、美術、哲学、心理、法律、記録文学、ノンフィクションである。この他レアブックコーナーがあり、古書籍がウィンドウに入れられ、

鍵がかかっていた。中二階はスポーツ、音楽、演劇、カルチャーである。

地階はごもの本、参考書、初等教育、中等教育テキスト、言語トレーニング、辞書売場であった。地階教科書売場は定価別に教科書が陳列されていた。五クローン(五十円)の教科書が一番安い。十五、二十五、三十九クローンの教科書が多い。七十五、九十九クローン(七五〇円、九九〇円)が高い教科書である。(エストニアの通貨は二〇一一年クローンからユーロになっている)

この書店は商工会議所、観光協会が推奨している。固定客が多く、市民に支持されている書店であることがわかる。店長さんは東京に行ったことがあるという。英語が堪能な好男子であった。

桜桃が出た。

私の家では、子供たちに、ぜいたくなものを食べさせない。子供たちは、桜桃など、見たこともないかも知れない。食べさせたり、ようごぶたろう。父が持って帰ったら、よろこぶだろう。蔓を糸でつないで、首にかけると、桜桃は、珊瑚の首飾りのように見えるだろう。

『桜桃』 太宰治著（角川春樹事務所）より



# もくじ

世界の本屋さん 54

「書標」歳時記〈6月〉

著書を語る(50) 『ラオス全土の旅』を出版して

川口 正志

1

書標・書評 『大正』を読み直す』ほか

特集 女たちよ。もっと強く、もっと自由に！

創刊60年！

「ごもごも」をライグする3つの方法

～おとなのとも見つけかた～

今月のおすすめ

コンピュータ	17	自然科学	18
医学書	19	社会科学	20
人文科学	22	文学・文芸	23
文庫・新書	24	芸術	25
実用書	26	地図・旅行書	26
語学・辞典	27	児童書	28
読者から			
インフォメーション			
本屋うらばなし「書店員の読書」			
	30		29

※表示価格はすべて本体価格です。

# 『ラオス全土の旅』を出版して

川口 正志



初めてラオスに行ったのは一九九五年。東南アジアを旅した僕が旅の最後に訪れたのがラオスだった。他の国と比べて極端に情報が少なかったため事前の情報はほとんどなく、とにかく首都のビエンチャンに着いた僕は他の旅行者から行ったほうが良いと勧められた北部にある古都ルアンパバーンを目指した。

ラオスは南北に長い国で、北から南まで主要都市の間を国道十三号線が結んでいる。しかしこの時はちょうど舗装化の工事を行っていたところで、僕の乗ったトラックを改造したバスは工事箇所を迂回しながらゆっくりと進んだ。ガラスのない窓からは容赦のない寒風が車内に吹きこみ、東南アジアということで軽装だった僕は寒さに震えながら早朝四時、ようやくルアンパバーンの街へと到着した。この時僕は半年かけてタイ、カンボジア、ベトナム、シンガポール、マレーシア、ミャンマーを旅したのだが、最も過酷で気が遠くなったのがラオスの旅である。しかし、旅を終えて日本に帰った僕は「どこが一番良かった？」と友人たちに聞かれ「ラオス」と即答していた。そう、この国は

とんでもない田舎で旅をするのも大変だけど、何故かとても癒される国だったのだ。そうして僕のラオス通いが始まった。

旅をする内に「この国の魅力は人だ」と気がついた僕は意識して現地の人々や人々の暮らしの写真を撮るようになり、毎年のようにラオスに通っては写真を撮りながらラオス各地を旅した。二〇〇二年、撮りためた写真で初の個展を東京と大阪で開催。その時に写真展を観に来てくれたのが今回、この本を出版した「めこん」の社長の桑原さんで、当時はただ好きでラオスを廻り写真を撮っていただけだった僕に「本を出版してみないですか？」と、声をかけてくれたのだ。ただ、そこから実際に本を出版するまでにはものすごく時間がかかってしまった。というのも僕にはまだまだラオス国内で行った事がない場所が沢山あったし、ラオスについての知識も浅かった。ラオスに通うにしても普通に日本で仕事をしながら時間を作っては行くという感じだったので、なかなか短期間で原稿が書けるといいうものではなかったのだ。おまけにいざラオスに行ってみれば、

ラオス国内は相変わらずの交通事情で滞在期間をフルに使っても多くの場所を廻れなかつたりもした。日本では考えられないが、雨季になると行けないところもあり、そういう場所へ行く場合は乾季にスケジュールを組まなければならなかつた。最終的にはこの本のための取材旅行というのも何度か行つたが、通常であれば一日で移動できる距離を一週間かけて移動してみたり、時間がいくらあつても足りない感じで、途中で一度タイやベトナムに出国してから再びラオスに戻つて取材を続けるという事もあつた。

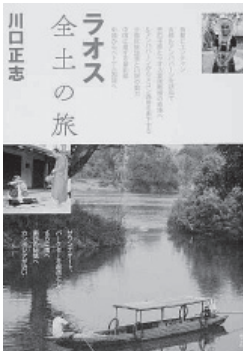
また取材をする上で困つたのが、取材当時は町の詳しい地図というのがほとんどなく、仮にあつてもそれはかなりいい加減なものであつたため、写真を撮つたり宿や食事をする場所を調べながら、スケッチブックに地図を描きながら歩いたりもした。

ラオス国内を移動するには凄く時間がかかるくせにこの国の変化は恐ろしく早いというのも頭の痛いところだつた。北部の町を取材して中央部まで戻つてくると、せっかく取材で集めたデータがもう古いものになつているのだ。「頼むから値段は書かないでくれ」ある時、船着き場に集まつていた船頭たちから僕はそう言われた事がある。日本人はガイドブックに書いてあると言つて昔の料金で舟に乗せると言うのだという。「今はガソリン代も値上がつてもそんな値段じゃ行けないよ」

僕がこの国を旅し出した最初の頃は、ガイドブックと

言つても咄嗟にはよく理解できないラオス人がほとんどだつた。しかし徐々にこの国を訪れる外国人旅行者が増えてくると、自分の国の事を紹介しようとしている僕に好意的に接してくれるラオス人も多くなり「こういう場所があるから連れて行つてあげようか？」と、現地の人しか知らない情報を教えてくれるようになつた。とはいへ、やはりこの国に観光名所と言えるようなところはそう多くはない。ラオスの旅の醍醐味は素晴らしい風景を見ることがより、この地に暮らすラオス人たちの素朴な日常の中に身を置き、穏やかに過ごしてみることかもしれない。

『ラオス全土の旅』はそんなラオスを全県に渡り紹介した本となる。通常のガイドブックとは違い、ルートに沿つて点ではなく線で紹介しているので、旅の情報と共に旅の雰囲気も伝わると思う。この本を読んだ方がラオスという国に興味を持ち、実際にラオスに足を運んでくれたら著者として大変嬉しい。



『ラオス全土の旅』  
めこん・4,000円



## 『大正』を読み直す』

子安宣邦著

藤原書店・三〇〇〇円

昭和四十二年七月、最高裁は「大逆事件」(明治四十三年)再審請求の特別抗告を棄却した。幸徳秋水らの有罪は覆らず、判決後即座に執行された死刑についても不問のままだ。

大正十三年九月、関東大震災直後の混乱のさなか、大杉栄は日本陸軍によって惨殺された。今日でも根強い人気を持つ大杉だが、その人となりが偲ばれることは多くとも、労働者が社会変革の道具だけにとどまらず、運動の主体であるべきとするその思想が、参照されることは少ない。ぼくたちは、昭和二十年に大きな「切断」を見ることに慣れすぎている。だが実際には、時代は連続しており、戦後の「民主主義国家」日本の国家的発展史とは、「民主主義」の衰退史ではないか、と子安宣邦はいう。「大逆事件」から一世紀後の日本は社会主義をその政党とともにほぼ消滅させた、と。

幸徳や大杉らの「直接行動論」の対極

にある吉野作造の「民本主義」は、「国家の主権の活動」としての政治が人民を目標とすべきことを言う。現在の「お任せ民主主義」に繋がる。

「神代」を政治的な「作り物語」と喝破した津田史学の〈脱神話化〉の読みのがさが顧みられることもなく、「古事記」が今までもはやされている。

だから、子安宣邦は「大正」を読み直す」のだ。明治三十八年の「日比谷事件」を発火点とし、「米騒動」へと結節する、民衆が秩序を動かしていくエネルギーの充満した「大正」を。(フ)

## 『本当の夜をさがして』

都市の明かりは私たちが何を奪ったのか』

ポール・ボガード著 白揚社・二六〇〇円

友人たちと星を見に行こうという話になったとする。街灯がある明るい場所で見よう、ということになるだろうか。ここでの本当の夜というのは、星がよく見える、人工の光が無い夜のことである。本来の姿の星空を見ることが出来る場所など、残念ながら現代の都市部周辺では全く無いと言っているだろう。

人間は、夜の暗さ、闇を遠ざげるため

に照明を作り出し、自身の生活空間に人工の光を灯していった。これは、夜を畏れる心から始まったことであろう。すなわち、世界が人口の光で照らされる以前の人々は、夜への畏怖があったに違いない。翻って、現代を生きる我々はどうだろうか。そもそも本当の夜を体感したことのない我々にそれが理解できるだろうか。夜は恐ろしい、だから光を灯して闇を遠ざけた、これはきっと正しいだろう。事実、月明かりに頼らずとも路を歩くことができるし、好きな時間に本を読み放題である。ただ、あまりにも明るく照らしすぎて夜を覆い隠してしまった。そのため失ってしまったものは、想像以上に大きいのではないだろうか。

まずもって、本当の星空を我々は失った。そして「夜は恐ろしい」という事実そのものを失ってしまった。恐ろしいものを遠ざけたいと思うのは尤もである。しかし、それが「恐ろしいもの」だということ自体は忘れたくない。

本当の星空は、本当の夜の中で見ることができない。恐ろしいからといってそれをただ駆逐してしまつては、知らぬ間に大事なものを失うことになる

だろう。

(助)

### 『うた合わせ 北村薫の百人一首』

北村 薫著

新潮社・一六〇〇円

短歌なぞとは縁のない若造だが、北村薫のファンゆえ読んでみた。

著者の選んだ二首が冒頭に置かれ、それに著者自身の随想が続く。全部で五十章あるので短歌は一〇〇首。

まず短歌のカップリングに驚く。

《シースルーエレベーターを借り切つて

心ゆくまで土下座がしたい》 斉藤斎藤

《疾風はうたごゑを攫ふきれぎれに

あなた、ま、りあ、りあ、りあ》 葛原妙子

そしてこの章は「祈り」と題されているのである。一体何のことかと随想のほうを読んでみれば、話はジョージ・エリオットやら「罪と罰」やらへ次々と飛び、それでいていつの間にか冒頭の短歌へ戻っている。そして読者は二首の間の隠れた符合と対照に気づかされる。さすが熟練のミステリ作家。思わず前のページに戻って読み返してしまう。

著者は言う。「ある歌とある歌を結ぶ

断ち切り難い糸が、自然と見えたりする。無論、わたしにとつての糸だ。歌と歌が

向かい合い、背を向け、またある時は、こちらの丘とあちらの丘の頂きのように遠く離れ、しかし、確かに響き合う。そういう音を、わたしは聴いた。」

われわれ読者もまた、本書を通じて「そういう音」を聴く。有名な歌も、著者の手にかかるると全く新しい音を響かせる。みんなの国語の先生こと北村薫に導かれ、五・七・五・七・七の小宇宙に心ゆくまで浸ろう。

(た)

### 『ままならないから私とあなた』

朝井リヨウ著 文藝春秋・一四〇〇円

二つのまったく設定の異なる中篇小説だが、思い通りにならない人間関係のズレ、そして何とか克服しようとしてもうまくいかない現代社会の一片を巧妙に描いている。

「レンタル世界」は同僚の結婚式で、新婦の友人として出席していた女性に恋をする。ところが彼女はレンタル業として友人役で出席していた。そんな考え方は間違っていると本当の人間関係を見せようと信頼する先輩の家庭を二人で訪問

するのだが。

嘘をつけばどこかでほころびがでるかもしれない。人は本音で付き合わなくてはならないが、複雑な今の社会、相手への思いやりで、または人間関係を潤滑にするため、こんな人間をレンタルするという会社も必要なのかもしれない。

「ままならないから私とあなた」は小学校からの大親友の二人の話。現実的でムダが嫌いな薫と正反対な雪子はなぜか気が合い、大人になっても友情が続いている。

黒板を消すのがむだだから、消す必要のないものを開発すればと思う薫に対して、消せないところを好きな渡辺君が消してくれたことを喜ぶ雪子。親友のため彼女が好きなアーティストのように弾ける物を発明したり、恋愛はムダだから結婚相手をアプリで見つけた薫の考え方に違和感を覚える雪子。だが小学校の淡い恋が実つてずっと付き合っている渡辺君とは決して順風満帆ではない。無駄が大切だともいえるが、余計な苦労をしないため割り切つて生きる雪子の気持ちもわかる気がする。こちらの作品もどちらが正しいか答えがでない。

(ひ)

# 女たちよ。 もっと強く、もっと自由に！

フェミニズムという言葉が社会に定着してからもうずいぶん時が経つたろうか。かれこれ二百年以上前から女たちは権利を求めて世界各地で闘ってきた。だがそれにもかかわらず、現代日本社会においてもなお、女の生は息苦しい。「女の子らしく」しろと育てられ、結婚することが女の幸せと論され、少子化だから子を産めと命ぜられ、と同時に低賃金で働き続ける道しか用意されず、どんな状況でも若々しく美しくいたいと不憫がられ……多くの女性たちが日々、有形無形の圧力下に置かれて生きている。「日本死ね！」は待機児童問題においてだけでなく、あらゆる局面で私たち女の偽らざる本音ではないか。

女たちよ、ともに闘い続けよう！という心意気で今回の選書をスタートさせたが、ざっと集めた本を読めば読むほど愉快な気分になっていく自分に気がついて、途中で方向転換をした。何を隠そう、女たちの闘いの歴史・物語はおもしろいのだ！セックス／ジェンダーにかかわらず、自分らしく気持ちよく生きられる社会をつくろうと奮闘する女たち。これらの本は女性だけでなく、別の形でもかもしれないが同じく抑圧されて息苦しさを感じているであろう男性諸

氏にとつても啓発的で励まされるものに違いない。現代社会の閉塞感をぶち抜く、女たちのパワーあふれる言葉をお楽しみあれ。

はじめはまず、『灯台へ』や『ダロウエイ夫人』などの傑作を残したイギリスの女性作家ヴァージニア・ウルフによる、『フェミニズム批評の聖典』とも呼ばれる古典から。昨年、平凡社ライブラリーから新訳『自分ひとりの部屋』（片山亜紀訳・一二〇〇円）が刊行されて話題になったが、長年読み続けられてきたみず書房刊『自分だけの部屋』（川本静子訳・二六〇〇円）ももちろん健在だ。一九二八年にケンブリッジ大学で女子学生に向けて行われた講演をもとにまとめられた本書でウルフは、「女性が小説を書くことと思うなら、お金と自分ひとりの部屋を持たねばならない」と語りかける。女性の経済的自立・精神的自立の重要性を説く文章の、一行一行がとにかく素晴らしい。独特の美しく洗練された文章には、彼女の知性・教養が余すところなく盛り込まれ、上品な皮肉が次々と炸裂し、隅々にまで彼女の確固たる意志が表れている。

古典の文学作品といえどご存知、シャー



ロット・ブロンテ『ジェイン・エア』（光文社古典新訳文庫・小尾美佐訳・上巻八四〇円・下巻九〇〇円）を挙げておこう。

この作品が発表された一八四七年当時、女性が感情をさらけ出し、自ら愛を告白するなどということは文学的にも社会的にも異例のことで、大きな問題にもなった。恋愛結婚がありえない時代に愛を貫く女性の物語は、今では想像もつかないくらいの衝撃を多くの人に与えたことだろう。

同時期の作品で、ぜひおすすりめしたい寓話が、ルーマー・ゴッデン『ねずみ女房』（福音館書店・ウィリアム・デュボア画・石井桃子訳・一二〇〇円）だ。巢を構えている家で居心地の良い寢床をこしらえ、日々のたべもの集めに奔走するめすねずみは、忙しい日々の中でも何か物足りないような気がしている。そこへある日、捕らわれたハトが連れられてくる。ハトはやがて外のことを話してくれるようになる。外に広い世界があることを知ったためすねずみは——。ふてぶてしいまでのおすねずみの描かれ方もなかなかだが、徐々に世界に開眼していくねずみ女房の様子が鮮やかな印象を残す。見えている世界がすべてではないのだと、今までしてきたことよりもっとすごい

ことができるのだと、ねずみ女房は外の世界を知ることので力を得る。

「知識は力」とは、『ねずみ女房』の発表から百年以上あと、アメリカで始まるラディカル・フェミニズムのキー・フレーズでもある。日本では「ウーマン・リブ」と呼ばれたこの女性解放運動のひとつの核になったのが、自分の体を知ることだった。子宮を「子どもを産むための一器官」としてのみ扱う男性医師たちから自らの性・体を取り戻すために、女たちは自らの性器を観察し、避妊や中絶手術の方法を学び広めていった。体をめぐる私たちの闘いについては、荻野美穂『女からだフェミニズム以後』（岩波新書・七八〇円）がコンパクトにまとめられていて読みやすい。現代からしてもかなりラディカルな活動だが、男性が中心の医師に任せきりにするのではなく、子を産む／産まぬ決定権を取り戻そうとする真つ当な要求といえる。その流れや必然性、社会に与えた影響を追いながら、ラディカル・フェミニズムが内包していた問題点や女性たちの間の意見の対立なども丁寧に解説してくれる。

リブの活動家のひとり、田中美津の『いのちの女たちへとり乱しウーマン・リブ論』（パンドラ・三〇〇〇円）も非常におもしろい。娼婦（性の対象として男性に媚びる生き方）と、主婦（娼婦を蔑みながら母性的なやさしさを男に貢ぐ生き方）との対立のように、「男性を間にはさんで互いに切り裂きあつてきた」女たち。その卑しさを指摘しながらも、自分の中にもその両方の刻印があると日々気づかされ動揺し続ける美津の文章は文字通り、「とり乱し」と表現するにふさわしい。読んでいて思わず笑ってしまうこともしばしばながら、一行一行に共感してしまう。女という性の背負う歴史性に影響され、ままならぬ社会状況の中で、それでも自分らしく生きたい、絡めとられたくない、しばしば矛盾してしまいうけれどもあきらめたくない、と終始「とり乱し」ている美津。すごい熱量で一気に読ませる力を持っている。本書がこれだけおもしろいのは、美津が見破り喝破した女性性と「とり乱し」の状況が、五十年ほど経った今でも本質的に変わっておらず、アクチュアルな批判として突き刺さるからだろう。女性が長年、背負わされて（場合によつては積極的に背負おうとして）きた女

性の歴史性に、無意識的に迎合する女性へ  
の美津の鋭い非難の言葉。

日本の小説、評伝、エッセイからも紹介し  
よう。どれも元氣の出る読みものばかりだ。

渡辺淳一『花埋み』（講談社文庫・  
九五〇円）は、明治初期に日本初の公許の  
女医となった荻野吟子の物語だ。十九歳で  
嫁いだが夫から淋疾をうつされた吟子。夫  
と離縁し、闘病しながら学問へのめり込ん  
でいく彼女はやがて、自分と同じく病に悩  
む女性たちに手を差し伸べたいと願うよう  
になり、医者への道を歩き始める。五〇〇  
ページを越す大著だが、読んでいて長いと  
は感じない。女だからという理由だけでな  
ぜあきらめなければならぬのか？とい  
う吟子の怒りや悲しみ、戸惑いや不安まで  
も丁寧に描き出す作者の筆致はさすが。直  
向きに努力し続ける、凛々しい吟子の生き  
様が愛しくて仕方ない。

荻野吟子とほぼ同時代を生きた大山捨松  
の評伝『鹿鳴館の貴婦人 大山捨松』（中公  
文庫・久野明子著・六六〇円）も良い。  
一八七一年に弱冠十二歳でアメリカに渡り  
学んだ大山捨松の人生を、捨松のひ孫がた  
どる。因習に縛られ、従順に振る舞う日本

人女性に憤慨し、捨松は日本でも女性に高  
等教育を受けさせる機会をつくりたいと願  
い、一緒に留学した津田梅子とともに女子  
英学塾（現在の津田塾大学）を奮闘の末に  
設立する。本書が書かれたのが一九八二年  
ということもあり、女性を取り巻く環境は  
（捨松の時代ほどではないにしても）現在  
よりも厳しい時代であることが端々から感  
じられるが、それもまたおもしろい。日々、  
社会に対して憤りを感じていた捨松の、健  
やかな意志の力が全編に満ちていて、背筋  
が伸びる思いだ。



『村に火をつけ、  
白痴になれ』

今、注目を集めている評伝が、筆一本を  
武器に結婚制度や社会道徳に立ち向かった  
女性・伊藤野枝について書かれた、栗原康  
『村に火をつけ、白痴になれ 伊藤野枝伝』  
（岩波書店・一八〇〇円）だ。思い切った  
タイトルからも想像できるが、この野枝と

いう人物がとにかくカッコいい。貧乏でも  
上京して学びたいとお金をせびり、決めら  
れた結婚相手からは逃げ出し、恩師でもあ  
る辻潤と結婚し、のちに大杉栄をめぐる四  
角関係へと身を投じ、子ども七人を産み育  
て、その間に雑誌『青鞥』の編集集をつと  
め、たった二十八歳という若さで大杉とと  
もに官憲に虐殺されるという、盛りだくさ  
ん（／＼）な一生を送った。気鋭の政治学  
者による文章もかなり破天荒でおもしろ  
い。著者は男性だが、まるで野枝本人のよ  
うに自由に、自在にその思想を語っていく。  
「ワガママ上等！」「習俗打破！ 習俗打  
破！」お金なんてなくても世間に何とい  
われても、みんなやりたいことを精一杯や  
ればいいのだとくり返し訴える著者が野枝  
とダブって見える。フェミニズムというよ  
りアナーキズムの観点から書かれていると  
いうのも興味深く、女性だけでなく男性読  
者もきつと魅了されるはずだ。ちなみに、  
伊藤野枝の生涯や、雑誌『青鞥』について  
は、瀬戸内寂聴『美は乱調にあり』（角川  
学芸出版・二三八一円）や、森まゆみ『青  
鞥』の冒険 女が集まって雑誌をつくると  
いうこと』（平凡社・一九〇〇円）なども  
読むことができる。

元氣をもらえらる女性のエッセイで、鴨居羊子『わたしは驢馬に乗って下着をうりにゆきたい』（ちくま文庫・八二〇円）をあげておきたい。新聞記者を辞めて下着をつくりはじめた著者。一九七三年に刊行された当時は、女性の下着はまだとても保守的なものだったというが、「これは女の下着の業というよりは、女の業そのものかもしれない。それらを体系づけ、総合してゆきながら、新しいものを創り、販売するということとは、既存の、この『業』に打ちかつことなのだ」と知るようになった。『本書はいわゆるフェミニズムについての本ではないが、下着という象徴的なものに自由をもたらそうと商売に乗り出した著者による、地に足のついた、実体験に基づく女性（自分）解放のための行動と言えらるだろう。

戦後の女性詩を牽引した石垣りんの詩をまとめた『石垣りん詩集』（岩波文庫・伊藤比呂美編・七〇〇円）にも、実際の生活や社会を見つめた詩が多い。結婚して家庭に入ることも、詩作だけで食べていくこともせず、労働者として銀行で勤め上げた詩人である。女の性の歴史性と闘うのではなく、それを超越したところ

で自分の生に価値を見つけていこうとす  
る姿勢を詩に詠んでいる。お気に入りの  
一節を引用しよう。

◎

炊事が奇しくも分けられた  
女の役目であったのは、  
不幸なこととは思われない、

そのために知識や、世間での地位が  
たちおくれたとしても  
おそくはない

私たちの前にあるものは  
鍋とお釜と、燃える火と

それらなつかしい器物の前で  
お芋や、肉を料理するように  
深い思いをこめて

政治や経済や文学も勉強しよう、  
それはおごりや栄達のためでなく  
全部が

人間のために供せられるように  
全部が愛情の対象あつて励むように。  
〔私の前にある鍋とお釜と燃える火と〕より

◎

なんておおらかな、独立の宣言だろう。

どんな状況下に生きていても、じつと社  
会の動きに目を凝らし思考することを手  
放さない姿勢こそが大切なのだと改めて  
教えてくれる。

ここまで紹介してきた女性たちの奮闘  
の軌跡を読みつつ、あわせて『フェミニ  
ズム』（新曜社・江原由美子・金井淑子編・  
二六〇〇円）も手にとっていたきたい。  
主にはラディカル・フェミニズムの流れ  
と論点についてまとめられている。女た  
ちの活動を俯瞰することで、フェミニズ  
ム理論が社会に与えた衝撃と影響の大き  
さを知ることができるだろう。

二百年以上前から続いてきた女たちの闘  
いの記録が二十一世紀に入った今も、自ら  
の性／生を自らの意思で生きようとする人  
たちの光となることを願う。女たちよ、そ  
して男たちも／もつと強く、もつと自由  
に生きてゆこう。（岩波書店 辻内千織）

\*愛書家の楽園・特集「女たちよ。もつと強く、

もつと自由に！」で紹介した書籍は、ジュ

ンク堂書店池袋本店一階エレベータ前と福

岡店三階、丸善名古屋本店一階と京都本店

地下二階にて、六月十日〜七月九日までフェ

ア展開中です。

# 「母の友」男子編集者×丸善丸の内本店児童書担当

## 創刊60年!「こどものとも」をディグする3つの方法

### ～おとなのともを見つけかた～



きっかけは福音館書店の月刊誌「母の友」でした。「母の友」とは子どもの暮らしと絵本を二本柱に「子どもと楽しく生きる」ヒントを届けてくれる、子育て世代にうれしい雑誌です。

ひよんなことから、この雑誌が編集長をはじめ、多くの男性編集者が関わってつくっていることを知り、「母の友なのに、男子が作ってるノ おもしろい!!」と思い、いつか一緒に何かできないか考えていたのです。

というのも、ここ丸善丸の内本店は、多くの男性が集う店。絵本に興味がない人に絵本のおもしろさを知ってほしいと、常に考えていました。

そんなある日、福音館の母の友の編集長Iさんから一通の企画メールが。

——今朝、通勤のため山手線に乗っておりました、丸善丸の内本店さんにいらっしゃる会社員の男性たちの姿を想像しながら、スーツ姿の皆さんを眺めておりました。この方たちに届けるべき絵本とは、と。

わたくしも人のことは言えませんが、皆さん、なんだか、疲れた感じがするな

あ、と思いました。いや、むしろ自分が疲れてるだけかなあ、なんて思っているうちに、「生きる力を届ける絵本」みたいなを紹介するというのはどうかなあ、と思いついて……。

とはいえ、そうすると、「母の友」が関係なくなってしまう。そこでたとえば、「母の友」六月号のお父さん特集に登場したおじさんたち(父父父劇場)に絵本について語りあってもらって、という流れなんて……と書いて書いてみたのが添付ファイルでございます。——

その添付には、「絵本は子どもに生きる力を届けますって言うじゃない?」

なら、オレにもくれよ、

その生きる力ってやつを——

というタイトルで、舞台は丸の内近辺のとある居酒屋、登場人物は中平・武田・新藤という三人のおじさんたちの会話が、台本形式で綴られていました。

ナニコレ? 企画書なの?!

でも、すっごくおもしろいノ

中平、武田、新藤とは、福音館書店の月刊誌「母の友」二〇一五年六月号特集「お父さんという生きもの」(父父父劇場)

に登場し、子育てにまつわる悩みを語り合った三人のキャラクター。

これで何かできないか！

「母の友」男子編集者と丸善丸の内本店男子脳女子（おっさん女子ともいう）がタッグを組んだ、大人男子のためのフェア第一弾が始まったのです。



「悩みを解決します！」  
お父さんたちのお悩みを解決します！  
フェアの本の購入をお願いします。

誌上を飛び出した彼らがさらなる悩みを告白。その悩みに、丸善丸の内本店児童書担当が福音館書店の絵本で答えるというちよつと変わった試み。

家は買ったほうがいいのかとか妻の理不尽にどう対応するべきかなど、リアルな悩みがいっぱい。あなたの悩みも絵本ですとんと解決させてみますよ。

題して「働くお父さんたちの悩みを絵本で解決します！」

例えば、

新藤

丸の内勤務の会社員。妻は育休中。娘はまだ〇歳の赤ちゃん。

基本はおだやかだが、時々、かつかする。妻に「イクメン」特集の雑誌をよく渡される。

そんな彼のお悩みは……。

悩み）妻の理不尽に、どう対応したらいいのでしょうか？ 論理では無理です。言い返すと不機嫌になって余計困ることになるだけなのです。

答え）「もっとおおきなたいほうを」

（福音館書店（あとの絵本も同、以下省略）・二見正直・九〇〇円）



『もっとおおきなたいほうを』

王さまとキツネの大きさ勝負。限度を知らない闘いは、あらぬ方向へ……？ 意地の張り合いなんてくだらない。とり

あえず、一緒にお風呂に入ろう。

↓愛する奥さんの理不尽。かわいらしいと思つて、我慢なさつては。

反撃すればいいつてわけじゃないみたいですよ。

答え）『くわずにようぼう』

（稲田和子再話・赤羽末吉画・八〇〇円）

よくばりな男が望んだのは、よく働き、でも飯をくわない妻。理想通りの美しい女があらわれて嫁にするが、なぜかどんどん歳の米が減つてゆく。おかしく思った男が見たものは……。

↓理不尽なことはたくさんあります。読めば奥さまのことを可愛く思えるでしょう。



『くわずにようぼう』

答え）『ままです すきです すてきです』

（谷川俊太郎文・タイガー立石絵・

八〇〇円)

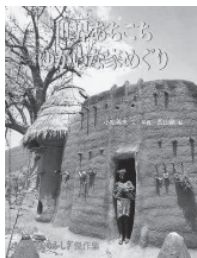
ただのしりとり絵本と侮るなかれ！  
その世界観はじわじわと、生涯忘れられない一冊になることまちがいなし！  
大人も子どもも、何度だつて繰り返し読みたい。

↓さりげなく奥さんの耳に届くように読み聞かせたりして。キュンとさせましょう。

悩み) 家は買ったほうがいいのでしょうか？  
か？ 借りたほうがいいのでしょうか？

答え) 『世界あちこち ゆかいな家めぐり』

(小松義夫文・写真・西山晶絵・一三〇〇円)



『世界あちこち ゆかいな家めぐり』

屋根に目がある家、えんとつで息する家、どんぐりの形の家// 中はどうなっているの？ もちろん、詳しく図説してあります。一軒一軒訪ねたら、きつと楽し

いだろうなあ！

↓おもしろい家を見たらあなたは家を建てたくなるかも!!

答え) 『たろうのひっこし』

(村山桂子作・堀内誠一絵・八〇〇円)

自分の部屋が欲しいとねだつたたろうに、おかあさんがじゅうたんをくれました。

さて、どんな部屋にしようかな。子どもの想像力に、わくわくがいっぱい！  
↓色んな所を転々とすると、新しい発見があります。



『たろうのひっこし』

答え) 『そらいろのたね』

(中川李枝子文・大村百合子絵・九〇〇円)

ゆうじは自分の宝物のひこうきときつねの宝物の「そらいろのたね」を交換し

て庭に埋め、大事に育てます。出てきたものはそらいろの家。家はどんな大きくなり、みんなが入りはじめるのですが、そこにきつねがやってきて……。

↓自分が素敵だと心から思えた家なら、どちらにしても楽しい人生のエッセンスになるはず。

あなたは、どんな家が好きですか？

こんな形で回答していただきました。これが、本当におもしろかった！  
スーツの男性が絵本を手にとっているのを目撃した時の快感といたら!!  
私がいちばん楽しかったことはこれだ!!  
私がいちばん、福音館書店のこどものとも創刊六十周年企画も「母の友」さんと再タッグを組むことに。それがこちら……。



「60年！こどものとも」をディグする3つの方法をおとすおフェアの様子

## 創刊60年！

「子どものとも」をディグする

### 3つの方法

「おとなのともが見つけた」

二〇一六年、月刊物語絵本「子どものとも」が六十周年を迎えました。毎年十二冊ずつ、七二〇冊の絵本が生まれ、人気作は単行本となつて現在も版を重ねています。単行本も現在、××冊以上。つまり、「たくさん」あります。この中から、自分にぴったりあった「子どものとも」をどう探すべきか……

昨年、福音館の育児雑誌「母の友」に登場し、ここ、丸善丸の内本店でも悩みを吐露した三人のお父さん「中平」「武田」「新藤」さんたち（音楽好きらしい）も「どれがいいかな」と悩んでいるご様子。わたしたち書店員がお手伝いしましょう！  
\*「ディグする」とはdig（＝掘る）ということ。音楽用語では「音楽を」探す「なん」という意味でも使われます。

ではこちらの見どころを、少しですがご紹介していきます。

手堅くいきたい、中平（絵本は息子が小

さい頃、ちよつと楽しんだ）

ほくは基本からおさえていきたいタイプなんですよ。たとえば、ジャズならマイルスの「カインド・オブ・ブルー」というか、まずは手がたく定番から攻めたいんだけどなあ

ならば、福音館書店が誇るロングセラーをご紹介します。

↓いちばん歴史が古いのは、

『しょうぼうじどうしゃじぶた』

（渡邊茂男作・山本忠敬絵・九〇〇円）  
一九六六年六月十日から、読み継がれています。

小さくつたつて、やるるときややる//  
じぶたは、山小屋の火事につたつたひとり立ち向かいます。いつまでも古びることのない、不動のりもの絵本。



『しょうぼうじどうしゃじぶた』

↓二位は一九六六年六月二十日発売の、

『おおきなかぶ』

（A・トルストイ再話・内田莉莎子訳・佐藤忠良画・九〇〇円）

おおきなかぶをぬくときの「うんとこしょ どっこいしょ」のかけ声は、誰でも覚えがあるはず。大らかさとユーモアを感じさせる、ロシアの昔話。



『おおきなかぶ』



『たろうのおでかけ』

↓三位は一九六六年七月一日発売の

『たろうのおでかけ』

（村山桂子作・堀内誠一絵・九〇〇円）  
プレゼントを持って、たろうはまみ

ちゃんの家に急ぎます。

でも、急いでいても周りには気をつけないと「だめ だめ だめ だめ」！

では、刷数の一番多いのは？

↓ご存知、『ぐりとぐら』（中川李枝子文・大村百合子絵・九〇〇円）

おそらく日本一有名なねずみのコンビでしょう。二人が森でつくる大きなすてらは、子どもたちの永遠の憧れ。

『ぐりとぐら』は、一九六七年一月二十日に発売されてから、二二〇刷！累計四八一九〇〇冊！恐れ入りました！！



『ぐりとぐら』

↓二位はこちらも『おおきなかぶ』。  
一六八刷、累計二八二五六〇〇冊。

↓三位は『だるまちゃんとしてんぐちゃん』

（加古里子作／絵・九〇〇円）

だるまちゃんは、てんぐちゃんの持っているうちわが気になります。

「てんぐちゃんのようなうちわがほしいよう」だるまちゃんの屈託のない子どもらしさと好奇心が長く愛されているでしょう。

一五五刷、累計一八一八五〇〇冊となつています。

二世・三世にわたって同じ世界が共有できるのも、絵本の魅力の一つです。  
（\*これは二〇一六年三月二日時点での数字です）



『だるまちゃんとしてんぐちゃん』

マニアックな武田（絵本にはけっこうつづわしい、らしい）

おれ、「つながり」にひかれるんすよ。  
メタリカがモーターヘッドをリスベクトしてると知ってどっちもますます好きになつた。

「絵本と絵本の間にある、ふしぎなつながり」みたいたいの知りたい！

「母の友」二〇一六年四月号には、絵本作家さんの「こどものとも」の思い出についてのエッセイが載っています。

↓二〇一六年四月号年向きに『もじもじこぶくん』（三八九円）を描かれたきくちききさんは、小さい頃の『おおきなかぶ』との思い出をあげています。

↓『ゆうびんやさんのホネホネさん』（八〇〇円）シリーズでおなじみにしむらあつこさんの印象深かった本は『ぶたぶたくんのおかいもの』（土方久功作・絵・八〇〇円）なのだそう。なんだか、わかる気がする?!  
どこかに今の作品に繋がるヒントがあるのかも！なんて思つて、二冊を読む比べるのも、おもしろいですね。



『ゆうびんやのホネホネさん』  
ホネホネさんはみんなに友達からの、夏の旅行のお誘いの手紙を届けます。ある日ホネホネさんにも手紙が届いて……。たくさんのお手紙の内容も楽しい一冊。





『ぶたぶたくんのおかいもの』  
はじめて一人でおいもののにでかけた。ぶたぶたくん。途中でかあこちゃんとも出会ったら、にぎやかなおいものツアーのはじまりです。

新しいもの好き / 新藤（子どもが生まれたばかり。絵本はこれから）

昔の作品はすごい、って詳しい人は言うじゃないですが。ビートルズやストーンズに比べて今のバンドは……みたいな。まあ、そつなのかもしれないけど、ぼく、正直、ぴんとこなくて……  
「やっぱ、新しいのが好きなんで、最近の本でおすすめて教えてほしいです」



ロングセラーの印象が強い福音館書店

ですが、新しい本にもおもしろいものたくさんあります。

『あいうえおみせ』

（安野光雅作・絵・九〇〇円）

大人には懐かしい、子どもにはめずらしいお店があいうえお順にずらり。

最後のページでは、おうちでゆつくりネットショッピングならぬ、ブックショッピングができますよ。



『あいうえおみせ』

『でんしゃにのったよ』

（岡本雄司作・九〇〇円）

でんしゃ、いとこのうち、うんでんせきのちかく、てつきょう、からあげべんとつ、まどぎわ、しんかんせん！  
男子の好きな物がいっぱいです！

『うさぎ』

（谷川晃一作・八〇〇円）

うそ、うさぎ？？これ、うさぎ？？

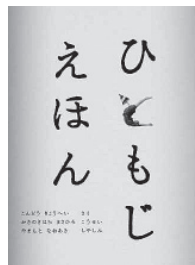
ちよっと（いや、けっこう！）変なうさぎが、おかしくって笑っちゃう。疲れた心に、これが効く〜。

『しおちゃんとしょちゃん』

（ルース・エインズワース作・河本祥子訳・絵・九〇〇円）

冒険して、失敗して、親に心配かけるのは、猫も人間もおんなじ。

安心できる後ろ盾があるからこそ、いろんなことに怖がらず飛び込めた子どもの頃。戻れるなら、戻りたい？



『ひともしえほん』

『ひともしえほん』

（近藤良平作・柿木原政広構成・山本尚写真・九〇〇円）

「からだでもじをつくってみよう」の呼びかけで、いい歳した大人たちが全力でひともしを造る！

最近、体、動かしてる？ 思わず真似

したくなる事間違いないし！

彼らの表情と小物使いにも注目！

『きょうりゆうがすわっていた』

(市川宣子作・矢吹申彦絵・九〇〇円)

「きみがうまれたときの はなしをしようか」と、お父さんの口から語られるのは、まさかの不思議な出来事。

きみと一緒に大きくなっているはずのあの子に思いをはせつつ、子どもの成長がいとおしくなります。

## 番外編はジャケ買い必須の名カバー

忘れられないインパクトを持つ表紙やタイトル。そんな絵本を集めてみました。

「顔」で選ぶのも、一つの手ですよ。



『ふしぎなナイフ』

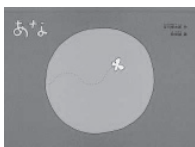
『ふしぎなナイフ』

(中村牧江、林健造作・福田隆義絵・

九〇〇円)

まるでその硬さや冷たさが伝わってくるよう。見事な存在感。

ページをめくると、リアルであるのに決して見ることでできないふしぎな世界。一本のナイフからこんな絵本ができるとは！ 圧巻！



『あな』

『あな』

(谷川俊太郎文・和田誠画・八〇〇円)

ぽっかりまるで、あいたあな。じっと眺めて、みてほしい。

読み終わった後は、裏表紙のぽっかりちやいらいあなも。

あなの奥に広がるロマンが、心にひたひたと染み込んでくる絵本です。

## 最後に「こどものとも」の

タイトルでメッセージを！

こどものともで『おおきくなるの』。絵本の世界へ『たからさがし』にでかけよう！

『やまこえのこえかわこえて』『おなかのすくさんぼ』。

ひみつの合言葉は、『めつきらもつきらどおんどおん』。

『まじよのかんづめ』見つけたよ。

わあ！『ジオジオのかんむり』！

『ちよっとだけ』ひとやすみしたら、また、しゅっぱっだー。

『いってらっしゃーいってきまーす』。

『あしたてんきになあれ』。



「こどものとも」のタイトルでメッセージを！

どんな絵本かはお店で直接手にとって見てくださいね。

奥深い絵本の世界。

その男子！ 未知なる扉を開けてみませんか？

(丸善丸の内本店・兼森)

今月の  
おすすめ

コンピュータ



### Unix考古学 Truth of the Legend

藤田昭人著

かつて発行していたUNIX専門誌「UNIX USER」にて連載されていた記事が、十二年の時を経て書籍として復活。オープンソースの先駆け、C言語の開発、緊密なコミュニティなど、現在のプログラミングに多大な影響をもたらしたUNIXは、どうやって生まれたのか。そこには開発者の情熱があり、企業の事情があり、幾つものドラマがあった。資料としても読み物としても秀逸な一冊。

ドワンゴ

二六〇〇円

### ネット炎上の研究

田中辰雄・山口真一著

これまでのネット炎上に関する書籍は個別の事例紹介や企業における対応策などが多かったのに対し、本書は定量的な分析をおこなっている点が新しい。アンケート調査からは、炎上参加者は「年取が高く、子持ちで若い男性」が多いという意外な姿が見えてきた。炎上はなぜ起さるのか、防ぐことはできないのか。そのひとつの答えが提示されている。

勁草書房

二二〇〇円

### シンギュラリティは近い

レイ・カーツワイル著

大著『ポスト・ヒューマン誕生』がコンパクトになって再登場。シンギュラリティとは人工知能が人間の能力を超える技術的特異点のこと。原著発行の二〇〇五年にはほとんど知られていなかった単語が昨今の第三の人工知能ブームで一躍脚光を浴びて、今回のエッセンス版発行となった。十年前に書かれたとは思えない、いまこそ読むべき予言の書。

NHK出版

一五〇〇円

### マイカーズのエロシステム

高須正和・ニコニコ技術部深圳しんせん観察会著

ワンボードマイコン Arduino の普及や3Dプリンターの低価格化などにもない、個人による創作活動、いわゆるメイカームーブメントは急激な成長を遂げている。多数の小規模製造業者と巨大な電気街を擁し、いま世界中のマイカーから注目を集める街、中国・深圳。マイカー、企業、政府がからみ合い独自の生態系を織り成している様を、現地の熱もあらわに描き出している。

インプレス

二一〇〇円

### 初めの Ansible

Lorin Hochstein 著

Skylark株式会社 玉川竜司訳

Ansible はサーバーの構築や設定の自動化をおこなう、オープンソースの構成管理ツール。競合ソフトの Chef は何点か解説書が出ていたが、待望の Ansible の本が登場。名前の由来は『ゲド戦記』で有名なアーシュラ・K・ル・グインのSF小説に登場する、超光速通信を意味する造語。本書もまた、高速で快適なサーバ管理を約束してくれるだろう。

オライリー・ジャパン 三二〇〇円

今月の  
おすすめ

自然科学

カメムシ

野澤雅美著 「カメムシ」といえば、洗濯物についていたり肩にとまったりしたのを追い払おうとすると臭い匂いを発する虫。あまり良い印象ではない。本書の著者はそんなカメムシを追いかけて、調べ続けてなんと五十年。

写真で見ると意外にも美しいカメムシがいることに驚く。またその生態、暮らしぶりからつき合い方まで、著者のカメムシ愛に溢れた文章がカメムシの「くさい」以外の魅力を伝えてくれる。

農山漁村文化協会

一六〇〇円



科学の発見

ステイヴン・ワインバーグ著

科学の意義は、自然の模倣にある。今日、ハイテックに反して「科学≡技術」として捉えられることが多くなっているが、本書はそれが如何に分断されたものであったかを論じている。

コペルニクスの美意識による「地動説」の発見から、ニュートンによる天空と地上の物理学の統一までを語る本書後半部は、ステイヴン・シェイピンに代表される「科学革命などというものは存在しなかつた」というような歴史観に対する批判でもある。科学革命は確かに存在し、それは「美しい理論のほうが、観測結果に合う醜い理論より正しい」という美意識によってもたらされたのだ。

思うに、現代の「科学≡技術」も、この美意識によって批判されねばならない。それは、理性の狡知（ヘーゲル）に対する、自然の狡知（カント）によるという意味において、柄谷の言う「憲法の無意識」にも通底する。「人類の世界の理解は蓄積していくものであり、その道のりは計画も予測も不可能だが、確かな知識へとつながっている」のである。

文藝春秋

一九五〇円

直感力を高める

数学脳のつくりかた

バーバラ・オークリ著

著者は工学教授だが、その経歴がユニークだ。かつては数学や理科が苦手で、高校時代は単位を落としたりしたほど。言語学が好きで、ロシア語に長けた軍人だった。軍を退役後に「脳を再教育しよう」と数学・科学を勉強し直し、電気情報工学の修士号とシステム工学の博士号を取得した。

数学脳をつくり直すことに成功した彼女が本書で提唱するのは、人間の脳機能をつまえた学習法。脳が持つ二種類の思考モードを切り替える方法、情報をチャックにして記憶する方法、先延ばしにする気持ちを克服する方法などの学習に効果的な脳の使い方が、豊富な事例や図を交えて解説される。

数学・科学を得意分野にしたい人や、ちろん、攻めの学習法を習得したい人や、問題解決能力を高めたいビジネスパーソンにもおすすめの「脳の取扱説明書」。

河出書房新社

一九〇〇円

今月の  
おすすめ

医学書

シミュレーションで学ぶ

避難所の立ち上げから管理運営

Happy

山崎達枝監修 江部克也編

災害医療の歴史は浅く、避難所のケアも新しい分野であるため、避難所に関するマニュアルがあっても学ぶための書籍は少ないのが現状である。本書は、エマルゴトレーニングシステムを用い、課題解決型学習法を取り入れて解説しており、問題解決能力を養うことや、深く考える訓練、体験学習を行うことも出来る。イラストや図表、人形（シンボル）を使うことでイメージしやすくしている。次の災害に備える為には普段からシミュレーションや訓練等を行うことが大切であり、減災につながるのではないだろうか。

荘道社

二七〇〇円

介護事業のグローバル人材活用術

古田勝美著

著者は三十五年にわた

り高齢者福祉に従事してきた社会福祉法人経営者。介護職員不足や介護報酬カットなどから生じるサービス低下問題の打開策として、外国人の介護スタッフ導入・活用に積極的に取り組んでいる。経済連携協定などによりフィリピン、インドネシア、ベトナムから日本に来て多くの看護師・介護福祉士候補者。彼らがより良く働ける体制をつくること、その後の海外に向けての人材活用も提案している。 幻冬舎 一五〇〇円

時間がなくても、お金がなくても、

英語が苦手でも、論文を書く技法

木下晃吉著

日々多忙な若手臨床医は、研究や論文作成まで目を向ける余裕がない。日常診療で常に新しい知見・珍しい知見・疑問・悩みなど問題意識を持ち続けていくことが大切である。本書は、時間のない中で効率のよい論文作成の進め方をビジネス思考の活用（研究・テーマの設定）・型の習得・クラウド利用の三ステップを用いて解説する。効率的にアウトプットできるスキルである。

中外医学社

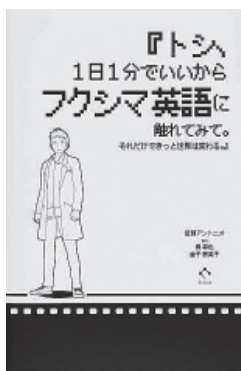
二五〇〇円

『トシ、1日1分でいいから、フクシマ英語に触れてみて。それだけできっと世界は変わる。』  
田淵アントニオ著

発売された本書のタイトルを見て、医学英語の本としてここまで（ピンポイントな内容で）やってしまってもよいのだろうか？との疑問も正直最初はあった。しかしそこはこれまでの医療英語学習本の常識を壊し、ベストセラーとなった「トシ」シリーズ。日本の現状や福島で何が起ったのか等の英語での伝え方を肩肘張らずに学ぶことができ、それによってほんの少しでも福島のことを思うことにつながる、そんな願いが込められた唯一無二の書籍となっている。

SCICUS

一三〇〇円



今月の  
おすすめ

社会科学

きみがもし選挙に行くならば

古川元久著 著者は民進党の国会議員で、十六歳の長男がいる。本書は親子の対話形式で、選挙や安全保障、社会保障や議員の仕事等、様々なテーマについて語り合うという内容。

今年六月から十八歳選挙権がスタートする。約七十年ぶりに投票年齢が引き下げられた選挙によって、日本の将来にどのような変化が期待できるのかが、わかりやすく書かれている。自身が政治家を志すに至った経緯も詳しく語られていて、政治に少しでも興味のある学生の方にはぜひ読んでいただきたい一冊。

集英社

一三〇〇円

東京β

速水健朗著 東京は常に変化を遂げる都市である。本書は東京を題材にした小説や映画などから、時代ごとに語られてきた都市像を掘り下げる。たとえば戦後

日本の家庭崩壊の映画「家族ゲーム」、パブル景気の若者の恋模様を綴ったドラマ「男女七人夏物語」、フジテレビ移転による台場の変化を表した「踊る大捜査線」、他にも岡崎京子の漫画や山崎達郎の歌には、繁栄と消費の象徴として東京タワーが掲げられている。オリビックを目前に控え、急激に発展し続ける東京の歴史を読み解く、重要な一冊である。

筑摩書房

一四〇〇円

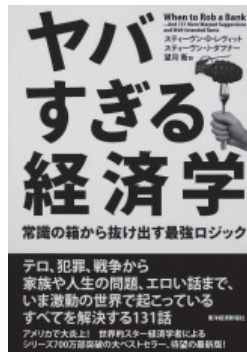
帝国の参謀

アンドリュース・クレピネヴィッチ、バリー・ワッツ著

本書が取り上げているのは、「ペンタゴンのヨード」などの異名もあるが一般には知られていないアンドリュース・マーシャルという人物である。一九二一年生まれで、九十歳を超えた二〇一四年まで米国防総省ネットアセスメント室のトップを務めた。米ソ冷戦、軍事革命、昨今ではピボットやリバランスと言われる数々の政策の舞台裏で、米国の世界戦略をデザインしてきた。公式の場には出ない、発言しない人物の半生をたどりながら、知の軌跡を追っている。

日経BP社

二八〇〇円



ヤバすぎる経済学

常識の箱から抜け出す最強ロジック

ステイヴン・D・レヴィット、ステイブン・J・ダブナー著

本書は大ベストセラー『ヤバい経済学』シリーズ待望の最新作で、世の中の問題を経済学的に検証する「一三」の話が収録されている。たとえば銀行を襲うのは何曜日がいいのか、レストランで腐ったチキンが出されたときにはいくら払うべきなのか、あるいは政治家に高給を与えれば能力の高い人が集まって政治は良くなるのかと言った問題が挙げられる。過激すぎて著者に書けなかった、炎上必須の小話満載である。

東洋経済新報社

一八〇〇円

## 池上彰の君たちと考える

### これからのこと

池上 彰著

本書は日本経済新聞で二〇一五年四月から今年三月まで連載されていた、東京工業大学での授業をもとにしたコラム記事を加筆修正したもの。加えて、『いま、君たちに一番伝えたいこと』の続編にあたるものもある。テーマは多岐にわたり、その時々々のニュースを題材に政治や経済に関わるものが多い。全てではないが学生とのやりとりもある。また、ひとつひとつのテーマの文章量も短めにされており、読みやすくなるように配慮されている。

日本経済新聞出版社

一二〇〇円

## 働き方Next 選ぶのはあなた

日本経済新聞社編

今の日本人の働き方について、最前線を徹底取材。問題点や将来像を解説した内容となっている。少子高齢化により労働力人口が減少するこれからの社会では、女性やシニアの更なる活用が重要になってくる。正社員の残業を減らし、

平行して非正規雇用の待遇改善を進める必要がある。どうすれば労働者全員が満足できる時代が来るのか。その解決のヒントが、本書を読むと見えてくるように思われる。転職、起業、地方移住、育児等、取材で得られた生の声は非常に貴重だ。

日本経済新聞出版社

一五〇〇円



## ハーバードの 人生が変わる東洋哲学

マイケル・ピュエット著

名門大学の人気講義の書籍化が続いているが、本書で扱うのは東洋哲学。日本でもおなじみの孔子、老子、孟子等の名が並ぶ。論語等の書籍は章句の解説が中心のものが多いが、本書ではそれらの哲学が生まれた時代背景から説き起こし、

自己実現を目指す西洋的な啓蒙思想と比較しながらその思想の真髄に迫る。

特に面白いのが孔子の章。子どものかくれんぼやクリスマスに例に（礼）の力を説く。堅苦しい形式に思えた礼が、習癖を破り真の自由をもたらすものに見える。知っていたはずの東洋哲学が、著者によって新たな息吹を与えられ、我々に新鮮な視点を示してくれるのだ。

早川書房

一六〇〇円

## 空室が日本を救う！

谷 正男監修

空き家、空きビル、空室の増加が日本の深刻な問題となっている。古い物件を活用して、社会を良くしていけないか。本書には、そんな課題に挑戦している革新的企業二十二社が登場する。

団地を丸ごと福祉施設に再生したり、屋上緑化を糸口にそこを人が集まる場所に生まれ変わらせたり、インバウンド効果を利用して外国人向け賃貸を促進したりなど、手法は多種多様。アイデアと情熱があれば、いくらでもやりようがあると感じた。

ダイヤモンド社

一五〇〇円

今月の  
おすすめ

人文科学

保育の瞬間

柴田愛子著

保育施設「リンゴの木」代表で、多方面に活躍する著者が、保育者として疑問に思ったり不思議に感じたりした様々なことに、具体的なエピソードを通して答えていく。子ども同士のトラブルも、見守っていると、時間をかけて本人たちが「解決していくことがある。子どもの心に寄り添うことを基本とする著者の、子どもを見る目の温かさが印象的である。

学研

一六〇〇円



柳田國男と考古学

設楽博己・工藤雄一郎・松田睦彦編著

日本民俗学を確立した柳田國男は、性質の違いから考古学とは袂を分かつたとみられていたが、実は石器や土器を収集していた。それらの資料を題材に、日本民俗学、考古学、人類学がどのように関わり、どのように分かれていったのかを豊富な画像と共に追究してゆく。知られざる資料を各分野の碩学が追究してゆくさまは、さながら謎解きのように。

新泉社

二二〇〇円

共にあることの哲学

岩野卓司ほか著

副題は「フランス現代思想が問う（共同体の危険と希望）—理論編」。フランス現代思想は「共同体」（または「共にあること」）について根本から問うてきた（パタイユ、ブランシヨ、ナンシー等々）。本書は資本主義と国家の価値が揺らいでいる現代にあつて、共同体の問題を再考する試みである。続く実践・状況編にも期待したい。

書肆心水

三三〇〇円

近代仏教スタディーズ

仏教からみたもうひとつの近代

大谷栄一ほか編

近代仏教史という「ハイカラな」「迷宮都市」の楽しいガイドブック（写真多数）。実は近代仏教は「時にはかばかしく、時には沈痛で、時にはあやまち、時には洞察力にあふれ、大谷光瑞から宮沢賢治までさまざまな「濃い」キャラの絡まりあうダイナミックな歴史」をもっている。

法蔵館

一三〇〇円

SAGE質的研究キット②

質的研究のための「インター・ビュー」

スタイナー・クヴァール著

このたび新曜社から刊行が開始された「SAGE質的研究キットシリーズ」第二巻にあたる本書。質的研究の理論家として第一人者である著者による主著の、待望の翻訳である。インタビューの技術とは職人技であり、本を読むだけではなくインタビューの実施により蓄積される技術だと著者は考える。社会調査に関わる人にとって、必携の一冊。

新曜社

二七〇〇円



今月の  
おすすめ

文学・文芸

バラカ

桐野夏生著

放射能警戒区域の中に一人残されていた少女。「ばらか」としか口にしないその少女をめぐる、この物語は恐ろしいほどに躍動する。震災という異形の神に、物語自身が命を吹き込まれたように。

大震災に原発事故という現実を目にした著者は、「作家として何もなかったよいうな話を書けるだろうかと自問し」た結果、当時構想中だった作品に、その現実と、そこから生まれた空想を大きく取り込んだ。

それはまさに「作家の業」であり、震災後の世界と同時進行的に紡がれた物語は、自身の吐き出す業火で己を焼き尽くしてしまうかのような壮絶な作品となった。

登場人物に対する共感と反感のギリギリの線をついてくる細かな心理描写と、リアルな設定。確かな筆力が、自在に広

がる物語をがっしりと支える骨太な傑作。

集英社

一八五〇円

残り者

朝井まかて著

幕末、鳥羽伏見の戦に敗れ、朝敵となった徳川家に江戸城の明け渡しを命じられる。官軍が来ることを恐れ、女中たちが我先に城を出ようとするとするなか、大奥にとどまった五人の「残り者」がいた。

大奥というと、御台所やそれぞれの主に忠義を尽くして奉公するイメージがあるが、本作の女中たちは皆、己の腕一本で長年務め上げた者たちばかり。先が見えない不安と混乱の中でも仕事のこと気がなってしまう、そこに見えるのは、忠義というよりも自分の仕事への誇りである。

家とも職場とも言える、唯一の場所を失うことへの不安や切なさを抱えながらも明日はやってくる。五人それぞれがどのような明日を迎えるのか、読み終えた後にはなんだか胸が温かくなる、そんな一冊だ。

双葉社

一五〇〇円

本懐に候

山本音也著

新撰組を題材にした小説を読むには体力・気力がある。とりかかるのに覚悟がいるのだ。激動の幕末、翻弄され倒れていった彼らには、惹かれずにはいられない強さと悲哀がある。覚悟して読んでいても彼らの運命にひきずられて苦しくなってしまふ。でももつと深くまで読んでみたいと思ってしまう。本書はまさに、苦しいけれど読まずにはいられない新撰組だった男たちの物語だ。

新撰組最後の隊長・相馬主計と、元隊士・安富才助。土方歳三の最期を看取ったふたりは、明治の世へと生き残っていた。相馬は腕を、安富は指を失って。

「これから向かっていく時世に腕を揮ってみたい」という相馬に対し、「新しい時世とは無縁にいずれ朽ち果てる」と思い定めている安富。どこまでも対照的に描かれる二人の行末。

読み終えて、やっぱり苦しかった……と思いつつも、その重さが心地よくて、この物語の世界に浸っていたいと思わせてくれる。

小学館

一七〇〇円

今月の  
おすすめ

文庫・新書

潮鳴り

葉室 麟著

「落ちた花は二度と咲かぬ」

もう時は戻せない。今更足掻いたとして、  
失った者は二度と戻ってはこない。

生きることを諦めていたはずの男女  
が、落ちた花を再度咲かしてみせたいと  
願ったとき、そこには死ぬことよりも辛  
い道が待っていた――。

そうまでして咲かせたかった花が、自  
分のための花ではなく、相手のための花  
だったというその境地に触れたとき、極  
限まで苦しみぬいた人がこうまでも他  
者を想うことができるのか、と衝撃を受  
けた。

『潮鳴り』は役目をしくじりお役御免  
となった権蔵の物語でありながら、好い  
た男に裏切られ身を売ったお芳の物語で  
あり、兄を慕いながらひたすら真摯に生  
きた新五郎の物語であり、妻子を捨てた  
俳諧師の咲庵の物語であり、武家の誇り

を守ろうとする染子の物語であり、そし  
て自分が落ちた花だと感じている誰かに  
続いていく物語なのかもしれない。  
ひとを愛する尊さを、改めて、思い知  
らされる作品である。

祥伝社文庫

七〇〇円



こんにちは刑事ちゃん

藤崎 翔著

N県警捜査一課のベテラ  
ン刑事、羽田隆信、五十歳。部下の鈴木と  
殺人事件の捜査中、犯人に撃たれて殉職。

冒頭からこれでは話が終わってしま  
うノと思いきや、どういうわけか彼は  
鈴木家の赤ちゃんと生まれ変わってし  
まったのだノ

しかもちゃんと五十歳のベテラン刑事  
としての記憶と知識を持って……。  
まさかの展開が読者をひきつけるユー

モアミステリーである。

それでいて昨今の育児事情なども織り  
込んで、社会派の要素も見せる。

果たして羽田はそのまま鈴木家の子ど  
もとして育っていくのか否か、そのあた  
りも注目いただきたい。

中公文庫

六八〇円

うまくいかないときの心理術

古田敦也著

最近、何かと仕事がうまくいかない、  
もうひとつ上のレベルに行きたいのに、  
どうしたらいいかわからない。誰かぐっ  
とくるアドバイスをくれないうらうか  
……そんなときに読んでみたいのが本書。

あの名捕手・古田敦也氏が、仕事や人  
間関係における具体的なケースを挙げな  
がら、経験に基づいた的確な解決法を伝  
授してくれる。

プロ野球という厳しい世界で実績を残  
した人の言葉は、そこには無縁の我々に  
も、生活や仕事における悩み解決に大い  
に役に立つ。この春社会へ出た人から、  
責任者の立場にある人まで、幅広く使え  
るアドバイスが満載である。

PHP新書

七八〇円

今月の  
おすすめ

芸 術

「売る」から、「売れる」へ。

水野学の

ブランディングデザイン講義

水野 学著

「くまモン」の生みの親でもあり、good design company 代表のクリエイティブディレクター・水野学さん待望の新刊である。

私たちがモノを買う時、一体何を基準に選んでいるのであろうか。商品のデザイン、価格、機能性など、その理由はきつと様々だろう。

そして、その理由の中の一つに、このメーカーの商品だったらきつと良いものに違いない、という信頼、つまり「ブランド力」が入っていることも少なくないのではないだろうか。

安くて性能の良い商品がいくらでも溢れている今の時代、「本当に良いモノ」であつてもそれだけで売れるように仕向けることは大変難しい。そのため、いか

に「ブランド力」を上げられるかが重要になってくるのである。

本書では、企業やその商品に合ったプロデュースをするために必要なポイントが実例と共に紹介されている。

デザインとは関わりのない方にとつても「プロデュースをする」とはどういうことなのかを知ることのできる書籍となっている。

誠文堂新光社

一六〇〇円

MINIATURE LIFE 2

MINIATURE CALENDAR 編

子どもの頃、プロッコリーを手にとつて「木に見える」と思ったことがある人は意外に多いのではないだろうか。大人になつてもその遊び心を失わず、創造力の限りをつくつて作り上げられた世界。それが本書 MINIATURE LIFE。

この作品に登場する人々はサンドイッチの山をハイキングしたり、クロワッサンの雲に乗り休日を謳歌する。なんとも楽しそうな世界である。また、本書の魅力は一つの作品ごとに添えられた一言にある。著者曰く悩んだらダジャレに走つてしまうというその一文が、作品に更な

る面白さを加えている。ソフトクリームを雪山に見立てた作品に添えられているコメントは「雪山をなめるべからず。」思わず笑つてしまった。

水曜社

二二〇〇円



見る前に跳んだ 私の履歴書

倉本 聰著

「北の国から」シリーズなど、多くの人気ドラマや舞台などを手掛ける脚本家・倉本聰さんの自伝。

幼少期のことからニッポン放送時代、さらにはドラマ制作秘話まで。その八十年を超える人生がたっぷり詰まった一冊である。

あの人気作品にはそんな設定があつたのか、と驚くこと必至である。

日本経済新聞出版

一六〇〇円

**今月の  
おすすめ**

**実用書  
地図・旅行書**

なぜ、あの家族は二人目の壁を乗り越えられたのか？

1 more Baby 応援団著

初めて産んだ子どもが、先日、二歳の誕生日を迎えた。親族・職場・保育園など、たくさんの方々に支えられて迎えた誕生日。とても嬉しい一日ではあったが、最近引つかかっているのは、実は別のこと。……できればこの子に、兄弟がほしいのだ。でも、教育費は？ 一人でも大変だったのに、本当にもう一人育てられるの？ 職場の上長・同僚たちにこれほど支えられていながら、また長い育休を取ると思うと……などなど、不安材料には事欠かない。

そんな煩悶を抱えながら働いていたときに入ってきたのが本書。一〇四五人のママ・パパからの聞き取りをもとに、「2人目の壁」を乗り越えたいまどき家族のいろんなカタチ、「2人目の壁」を乗り越える8のヒント」、「子どもが2人以

上いる家族ってどんな人たちのの？」の全三章で構成されている。

二人目を授かって出産するまでの道は平坦ではないけれど、「これがクリアできていなければダメ」というものでもない。さまざまな家族の、さまざまな例を挙げながら、「二人目がほしい」あなたや私の背中をそっと押してくれる一冊。

プレジデント社 一三五〇円

**花と人のダンス**

川崎景介著

著者は幼い頃から花に囲まれて育ち、やはり花に関わる仕事に携わる家族の様子を見て、「花とダンスしている」みたいと感じる。古来、花は人間の思いを全て受け取り、時に代弁し、心を癒す大切な存在だった。

『星の王子さま』と花一輪、ツタンカーメンに捧ぐ花、『万葉集』の人気者ハギの魅力、グレース・ケリーとスズランの花束、巨匠ガウディは植物の教え子、花を踊らせた絵師 伊藤若冲、など「読むと幸せになる花文化五十話」というサブタイトル通り、古今東西の花と人のエピソードが盛り沢山。

本文書体や装画も美しく、添えられた図版が楽しませてくれる。

講談社エディトリアル 一六〇〇円

**ツバサノキオク**

スケールアヴィエーション編集部編

災害時や遭難時、最後の砦となつて人々の救出に向かうのは、自衛隊の救難部隊である。全ての組織が搜索を断念した後に初めて出動許可が下りるため、彼らの任務は必然的に過酷なものとなる。だが、その救助の様子は殆ど報道されない。本書はそんな現状を憂いた杉山氏が、救難隊の実情を発信する目的で寄せた、飛行機模型専門誌での連載が纏められている。本職は映像プロデューサーであり、数々の航空関連作品を手掛けてきた著者ならではの、「航空」に対する計り知れない熱意と、救難隊への深い尊敬の念がひしひしと伝わってくる。

最善を尽くしても救えない命がある。その事実には傷を負いながら、今日も訓練に励む救難隊。我々は何のような形で、彼らの活動を支えることができるのだろうか。考えさせられる一冊。

大日本絵画 三二〇〇円



語学・辞典

Jリサーチ出版 一〇〇〇円

世界の英語ができるまで

唐澤一友著

ハッキヨイ！ せきトリくん  
ひよの山の  
英会話に待ったなし！  
リサ・ヴォート著  
にしづかかつゆき絵

本書は日本相撲協会公式キャラクター「ハッキヨイ！ せきトリくん」のひよの山を中心に、相撲に関する言葉や多くの人が抱きそうな疑問について、可愛いイラストとマンガで楽しく分かりやすく解説している。

日英対訳になっており、ひよの山とライバル赤鷲の成長と戦いを中心に、角界の慣習や決まりごとなどを通して英語のフレーズを覚えられる。相撲についての解説も詳しく、国技である相撲を知るうえでも役に立つ一冊だ。四年後の東京オリンピックに向けて今後さらに外国人観光客増加が予想されるが、日本文化に興味を持つ外国人に、英語で相撲の魅力を語れるようになるだろう。

英語のしくみがわかる  
基本動詞24

小西友七著

英語に限らず外国語を勉強する際、よく使われる基本動詞ほど習得するのは難しい。例えばgetを「手に入れる」と覚えていただけでは対応できなかった経験がある方もいるのではないか。その動詞自体が持つ曖昧性によって名詞との組み合わせで様々な意味合いを帯びたり、省略や比喩的使用が方により全く異なる意味にもなる。だからこそ基本動詞ほどネイティブの使用頻度が高く、基本動詞の使い方にこそネイティブの考え方が表れやすい。

本書は基本動詞の「中核的意味」から意味が派生していく様子を図解で分かりやすく示しつつ、それぞれの意味に類義語を示すなど様々な視点を取り入れることで、習得の難しい基本動詞を分かりやすく解説している。本書にある二十四の基本動詞をマスターすれば、いままで曖昧だった基本動詞に対する理解が深まるだけでなく、英語ネイティブの考え方向への理解も深まるだろう。

具体的にはイングランドにおける英語盛衰史からはじまり、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ、更にはカリブ海地域やアフリカ、アジアなどその名の通り「世界」という名にふさわしいほどの変貌を遂げる。英語史関連書と比べると、かなり一般向けに書かれており、読みやすい。新しい英語の形である「ビジン」や「クレオール」にも触れており、英語の多様性や豊かさを知ることができる一冊。

亜紀書房 二〇〇〇円

研究社 二五〇〇円

今月の  
おすすめ

児童書

このあとどうしちやおう

ヨシタケシンスケ作

亡くなったおじいちゃんの部屋のベッドの下からノートが出てきました。

「このあと どうしちやおう」と書かれたノートには、自分が死んだらどうなるのか、どうなりたいのか、いてほしい神様の理想像、家族への希望などがヨシタケシンスケの世界で書かれていて、死をテーマにしているのに重くも軽くもなく、楽しく真剣に考えられます。

ブロンズ新社

一四〇〇円



ちっちゃいさん

インール作 宇野和美訳

夫婦の元にちっちゃいさんがやってきました。ちっちゃいさんの生態(?)や仕草、ちっちゃいさんとの生活がよく描かれていて、愛されていたこと、愛していたことがふつつつと思いついてきます。この絵本を読むと、子どもの寝顔を眺めるのと同様に、時折のぞく子育ての疲れも癒されることでしょう。

講談社

一五〇〇円

十三番目の子

シヴォーン・ダウド作 パム・スマイ絵

池田真紀子訳

村の言い伝えでは、十三番目に生まれた子は十三歳の誕生日に地底の暗黒の神ドンドの生け贄として捧げなければならぬ。生け贄となる少女ダーラは、十三歳の誕生日の前日に十二番目の子である双子の兄と再会します。生まれた時に順番を取り違えられていた事実を知った二人は、この日はじめて会った互いのために、ある決断をします。北方の神話の空気を感ぜさせる美しい物語です。

小学館

一三〇〇円

シュヴァール

夢の宮殿をたてた郵便配達夫

岡谷公二文

山根秀信絵

今から百年ほど前、郵便配達夫シュヴァールは不思議な形の石を発見し、空想上の夢の宮殿をたてることを決意。村人たちが変な目で見られてもその情熱は衰えず、三十三年もの月日をかけて完成させます。当時の雑誌や万国博覧会の影響を強く受け、非常に細かいところまで見事に造りこまれた宮殿は、見る者を圧倒します。

福音館書店

一三〇〇円

小やぎのかんむり

市川朔久子著

小さな山寺でのサマーキャンプ。苦しく息が詰まる毎日から逃れてきた中学三年生の夏芽は、五歳の雷太、地元の高校生葉介、優しいお寺の人々との触れ合いを通じて、その胸の奥底でずっと抱え続けていた問題と正面から向き合おうとします。精一杯生きる者へ贈られる「宝だ」の一言は、心の奥深くまで響きます。

講談社

一四〇〇円

『心臓外科医がキャリアを捨ててCEOになった理由』

山崎 舞

新しいことに真剣に挑戦するためには、一方で古い何かを捨て去らないと、エネルギーや集中力の分散を防げない——言うは易し、行方は難しという諺があるが、本書の著者は思い切ったキャリア選択をして、自分の成し遂げたい夢の実現にむけてたゆみない努力を続けている人です。

現役で京大理学部に入るも、卒後に不安を感じ翌年京大医学部に再入学。医師となった後も、研修医、心臓外科医、研究者、経営者とその時々自分のやりたいことと自身の気持ちに素直に、実にしなやかにキャリアを変えてきた人物です。

一度他学部に入學した後医学部に入學し直していらっしやることや、常にいろいろなことに興味を持ち続け、男性優位の社会にありながらも自分の信念に素直に、しなやかに変化に柔軟に対応し生き抜いていらっしやる

などの点で惹かれ、本書を手にとりました。

女性が、結婚や出産、育児などのライフイベントと仕事を両立することが立派で偉大なこととされている風潮があると感じているのですが、個人的には、今の日本社会はそのロールモデルとなるような人物が少ないと感じています。

私は今、医学部学生ですが、自分の親の世代「勝ち組女子像」と、今のそれとは大きく異なっているように感じています。そんな中、本書は、自らのキャリアプランを考える上で大いに助けになると思いました。

(二十一歳・学生)

\*『心臓外科医がキャリアを捨ててCEOになった理由』  
(東洋経済新報社・野尻知里著・一五〇〇円)

# ATION

<p>ジュンク堂書店  <b>＝名古屋栄店＝</b>            ☎(052)212-5360            [営業時間] 10時～20時</p> <p>丸善  <b>＝名古屋セントラルパーク店＝</b>            ☎(052)971-1231            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ロフト名古屋店＝</b>            ☎(052)249-5592            [営業時間] 10時半～20時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝名古屋店＝</b>            ☎(052)589-6321            [営業時間] 10時～21時</p> <p>MARUZEN  <b>＝岐阜店＝</b>            ☎(058)297-7008            [営業時間] 10時～21時</p> <p>MARUZEN  <b>＝四日市店＝</b>            ☎(059)359-2340            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝滋賀草津店＝</b>            ☎(077)569-5553            [営業時間] 10時～22時</p> <p>MARUZEN  <b>＝京都本店＝</b>            ☎(075)253-1599            [営業時間] 11時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝京都店＝</b>            ☎(075)252-0101            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝高槻店＝</b>            ☎(072)686-5300            [営業時間] 10時～22時</p>	<p>MARUZEN &amp; ジュンク堂書店  <b>＝梅田店＝</b>            ☎(06)6292-7383            [営業時間] 10時～22時</p> <p>丸善  <b>＝関西国際空港店＝</b>            ☎(072)456-6486            [営業時間] 7時～21時半</p> <p>丸善  <b>＝八尾アリオ店＝</b>            ☎(072)990-0291            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝高島屋大阪店＝</b>            ☎(06)6630-6465            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝大阪本店＝</b>            ☎(06)4799-1090            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝難波店＝</b>            ☎(06)4396-4771            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝天満橋店＝</b>            ☎(06)6920-3730            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝上本町店＝</b>            ☎(06)6771-1005            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝梅田ヒルトンプラザ店＝</b>            ☎(06)6343-8444            [営業時間] 11時～22時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝近鉄あべのハルカス店＝</b>            ☎(06)6626-2151            [営業時間] 10時～20時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝奈良店＝</b>            ☎(0742)30-1021            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝西宮店＝</b>            ☎(0798)68-6300            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝芦屋店＝</b>            ☎(0797)31-7440            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝神戸住吉店＝</b>            ☎(078)854-5551            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝三宮駅前店＝</b>            ☎(078)252-0777            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝三宮店＝</b>            ☎(078)392-1001            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝神戸さんちか店＝</b>            ☎(078)335-2877            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝舞子店＝</b>            ☎(078)787-1250            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝姫路店＝</b>            ☎(079)221-8280            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝岡山シンフォニービル店＝</b>            ☎(086)233-4640            [営業時間] 10時～20時</p>	<p>MARUZEN  <b>＝広島店＝</b>            ☎(082)504-6210            [営業時間] 10時～22時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝広島駅前店＝</b>            ☎(082)568-3000            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝高松店＝</b>            ☎(087)832-0170            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝松山店＝</b>            ☎(089)915-0075            [営業時間] 10時～21時</p> <p>MARUZEN  <b>＝博多店＝</b>            ☎(092)413-5401            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝福岡店＝</b>            ☎(092)738-3322            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝大分店＝</b>            ☎(097)536-8181            [営業時間] 10時～20時</p> <p>MARUZEN  <b>＝天文館店＝</b>            ☎(099)239-1221            [営業時間] 10時～20時半</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝鹿児島店＝</b>            ☎(099)216-8838            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝那覇店＝</b>            ☎(098)860-7175            [営業時間] 10時～22時</p>
---	---	--	--



<p>MARUZEN &amp; ジュンク堂書店  <b>＝ 札幌店 ＝</b>            ☎(011)223-1911            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善  <b>＝ 水戸京成店 ＝</b>            ☎(029)302-5071            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善  <b>＝ 日本橋店 ＝</b>            ☎(03)6214-2001            [営業時間] 9時半～20時半</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 吉祥寺店 ＝</b>            ☎(0422)28-5333            [営業時間] 10時～21時</p>
<p>MARUZEN  <b>＝ 札幌北一条店 ＝</b>            ☎(011)232-0222            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>MARUZEN  <b>＝ 丸広百貨店飯能店 ＝</b>            ☎(042)973-1111            [営業時間] 10時～19時</p>	<p>丸善  <b>＝ お茶の水店 ＝</b>            ☎(03)3295-5581            [営業時間]            月～金10時～20時半            土10時～20時            日・祝10時～19時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 立川高島屋店 ＝</b>            ☎(042)512-9910            [営業時間] 10時～21時</p>
<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 旭川店 ＝</b>            ☎(0166)26-1120            [営業時間] 10時～19時半</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 大宮高島屋店 ＝</b>            ☎(048)640-3111            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>MARUZEN  <b>＝ 多摩センター店 ＝</b>            ☎(042)355-3220            [営業時間] 10時半～21時</p>	<p>丸善  <b>＝ ラゾーナ川崎店 ＝</b>            ☎(044)520-1869            [営業時間] 10時～22時</p>
<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 弘前中三店 ＝</b>            ☎(0172)34-3131            [営業時間] 午前10時～            午後7時</p>	<p>丸善  <b>＝ 桶川店 ＝</b>            ☎(048)789-0011            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善  <b>＝ 有明ワンザ店 ＝</b>            ☎(03)5530-5701            [営業時間] 10時～19時半</p>	<p>丸善  <b>＝ 横浜ポルタ店 ＝</b>            ☎(045)453-6811            [営業時間] 10時～22時</p>
<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 盛岡店 ＝</b>            ☎(019)601-6161            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善  <b>＝ 津田沼店 ＝</b>            ☎(047)470-8311            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善  <b>＝ メトロ・エム後楽園店 ＝</b>            ☎(03)5684-5130            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 藤沢店 ＝</b>            ☎(0466)52-1211            [営業時間] 10時～21時</p>
<p>丸善  <b>＝ 仙台アエル店 ＝</b>            ☎(022)264-0151            [営業時間] 10時～21時            日・祝10時～20時</p>	<p>丸善  <b>＝ 舞浜イクスピアリ店 ＝</b>            ☎(047)305-5808            [営業時間] 11時～21時、            土・日・祝10時～21時</p>	<p>丸善  <b>＝ 新宿京王店 ＝</b>            ☎(03)5321-4685            [営業時間] 10時～20時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 新潟店 ＝</b>            ☎(025)374-4411            [営業時間] 10時～21時</p>
<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 仙台TR店 ＝</b>            ☎(022)265-5656            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 松戸伊勢丹店 ＝</b>            ☎(047)308-5111            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 池袋本店 ＝</b>            ☎(03)5956-6111            [営業時間]            月～土10時～23時            日・祝10時～22時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 岡島甲府店 ＝</b>            ☎(055)231-0606            [営業時間] 10時～19時</p>
<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 秋田店 ＝</b>            ☎(018)884-1370            [営業時間] 10時～20時</p>	<p>MARUZEN &amp; ジュンク堂書店  <b>＝ 渋谷店 ＝</b>            ☎(03)5456-2111            [営業時間] 10時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝ プレスセンター店 ＝</b>            ☎(03)3502-2600            [営業時間] 10時～20時</p>	<p>MARUZEN  <b>＝ 松本店 ＝</b>            ☎(0263)31-8171            [営業時間] 10時～20時</p>
<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 郡山店 ＝</b>            ☎(024)927-0440            [営業時間] 10時～19時</p>	<p>丸善  <b>＝ 丸の内本店 ＝</b>            ☎(03)5288-8881            [営業時間] 9時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 大泉学園店 ＝</b>            ☎(03)5947-3955            [営業時間] 10時～22時</p>	<p>MARUZEN &amp; ジュンク堂書店  <b>＝ 新静岡店 ＝</b>            ☎(054)275-2777            [営業時間] 10時～21時</p>
			<p>丸善  <b>＝ 名古屋本店 ＝</b>            ☎(052)238-0320            [営業時間] 10時～21時</p>

営業時間は変更する場合がございます。ご了承ください。  
 定休日については、お手数をおかけしますが弊社HPまたは直接各店までお問い合わせ下さい。

# ブックブレスター



わが家では毎年五月から六月は運動会の季節。小学校の組み体操、中学校の部活対抗リレー、高校の騎馬戦や応援合戦など、工夫をこらされ盛り上がる種目を観戦するのが楽しみだ。

(緒)

## 投稿募集

☆読者の皆様の投稿を募集しています。最近読まれた本の感想文、本にまつわるエッセイ、など本に関するもの。最近読んでおもしろかった本、感動した本、考えさせられた本を教えてください。四〇〇字×六〇〇字程度で、おすすめの本のタイトル、出版社、住所、氏名、年齢、職業を明記の上、お送り下さい。掲載分には二千円の図書カードを差し上げます。なお、原稿はお返しいたしませんのでご了承ください。

☆尚、本誌掲載と同時に、ホームページにも掲載させていただきます。

〒171-0022 東京都豊島区南池袋二―151-15

丸善ジュンク堂書店「書標」編集室係

TEL〇三―15956―6111

いつも「書標」をご愛読いただきましてありがとうございます。本誌定期購読料は以下の通りです。

定期購読料 年間二二〇〇円（送料込）

現金書留もしくは八十二円切手十五枚で

お申し込み先

〒171-0022 東京都豊島区南池袋二―151-15

丸善ジュンク堂書店特急便係

TEL〇三―15956―6111

FAX〇三―15956―6100



QRコード

PC・スマートフォンから  
<http://www.junkudo.co.jp/>



## 書店員の読書

書店員というのは月に何冊、本を読むのか？

ということを考えてみたけれど、月並みな答えになるが人それぞれだと思ふ。僕に関して言えば、小説が月に五〜十冊、漫画が二十〜三十冊程度である。今思えば書店員になる前はこんなに読んでいなかったし、書店員になってから年々読む量が増え、今に至ってしまった気がする。

僕の読書量が一般的に多いかどうかは自分で判断しにくい、漫画を月に二十〜三十冊はまあまあ多いのではないかと思ふ。

書店員仲間と読書の話になると、よく読むスピードの話になる。そして、どう

も僕の読むスピードは早い方であるらしく、どうやったらそれだけ早く読めるのかを聞かれることがある。その答えとしては「すごく集中して読む」だけである。こう答えると笑われるのだけど、それしか答えようがない。僕はこれで、小説だと一冊一〜二時間、漫画だと一冊五分〜十分で読める。

漫画だけの話をする、集中して読むと一ページもしくは見開き一ページがコマとして読める。こんなわけで一冊読むのがあつという間というわけである。

しかしながら、本が早く読めることは良いことだ、ということとはなく、時間を潰したいときにこのスキルを発揮したりすると困ったことになってしまう。

さらには休日におしゃれなカフェでゆっくりと読書々と思っけていても、すぐに本を読み終えてしまつて「ゆっくり」

部分を満喫できず、残された時間はコーヒーをちびちび飲みながら挙動不審に過ごすのみ。そして、このせいでしばしば落ち着きがないとたくさんの方から言われ、踏んだり蹴ったりである。

僕の歳も四十歳に近づくにつれて、やはり本はじっくりと読みたいものだと最近はしみじみ思う。けれども、一方では人間が一生のうちに読める本の数は限られており、それだつたらたくさん読めた方がよいのでは？とも思っけている。

結局のところ、何が言いたいのか自分でも分からなくなつてきているが、本は学ぶものでもあり、楽しむものでもあるので、早く読めてもじっくり読んでもどちらでもよく楽しんだもの勝ちだ。

僕らが販売している本たちが楽しく読んでもらえることを願っけている。

(junku)

## 「書標 ほんのしるべ」 第451号

編集・発行人 工藤 恭孝

発行所 (株)丸善ジュンク堂書店

印刷所 (株)七 旺 社

二〇一六年六月五日発行 頒価五十円(本体四十六円)

〒160-0008 東京都新宿区三栄町二十九 ニューフィールドビルディング

〒653-0013 神戸市長田区一番町二丁目一

丸善&ジュンク堂ネットストア会員のお客様へ

MARUZEN & JUNKUDO  
ネットストア

は **honto** と

## サービス統合いたしました

移行キャンペーン実施中!

キャンペーン期間：6月30日(木)まで

今なら 丸善&ジュンク堂ネットストア会員の方が  
honto会員へ移行手続きをいただくと

さらに honto新規会員登録の方に

もれなく

**100円分**  
ポイントプレゼント中!

**電子書籍**  
クーポン  
プレゼント!

移行手続き・キャンペーンの

詳細はこちら → <http://honto.jp/cp/junkudo>



### ハイブリッド型総合書店「honto」



貯まる! 使える!  
hontoポイント

全国のhontoサービス実施店に加えて、電子書籍ストア、ネットストアでのお買い物でポイントが貯まる・使えるサービスです。



専門書も含む  
在庫が豊富

hontoからの注文時、丸善およびジュンク堂書店の一部店舗の在庫連携が可能になり、さらに在庫数が豊富になりました。

※在庫連携可能店舗は、今後さらに拡大予定。



店舗お取り置き

hontoを通じて、全国の丸善およびジュンク堂書店店舗の在庫を確認し、そのまま店舗の在庫をお取り置きするサービスです。



会員限定!  
セール&キャンペーン

ポイントが通常より多く手に入るキャンペーンやhonto会員限定キャンペーンなどhonto.jpならではのセールもたくさん開催。おトクに本を購入することができます。

**ジュンク堂書店**  
淳久堂書店

**M MARUZEN**